

【乳用牛改良増殖推進検討委員会（令和 6 年 10 月 30 日開催）の意見】

一般社団法人 Food Communication Compass

森田満樹

本日の議題である「新たな乳用牛の改良増殖目標の骨子案」につきまして、以下ご意見、感想を申し上げます。

（意見）

【1p の「2 改良目標」について】

● (1) 「①乳量」について

「生涯生産性を高めるために繁殖性の向上などを行いつつ、酪農経営の収益に係る乳量についてもバランス良く改良を行う。」という記述について、「バランス良く」という表現に曖昧な印象がある。能力改善を進め年間当たりの乳量を増やすことが求められる一方、後述にあるとおり長命連産性や飼料利用性、からだの大きさを抑える改良等も含めると、単に年間当たりの乳量を増やすのではなく、総合的に考えて「バランス良く」という表現になっているのだろうか。そうであれば、少しわかりやすく、具体的に書き加えること等ご検討いただきたい。

● (1) 「②乳成分」について、

「現行は乳量増の改良を行いながら、乳脂率・乳たんぱく質率が維持されるよう乳成分の改良を進めているが、特に乳成分率について需要に応じた表型値目標を設定すべきか検討。」という記述について、市場における脱脂粉乳の需要が減少し、消費者のニーズを考えると良質粗飼料の生産・給与などの飼養管理の高度化を進めるべく表現目標を設定したほうがいいのかご検討いただきたい。

● (1) 「②乳成分」について、

A2 ミルクは、現状では健康機能面において十分な根拠がないことから、現時点では骨子案には盛り込まれていないが、一部の消費者の期待もあることから、新たな知見が出てきた際には追加を検討して頂きたい。

● (1) 5 「③長命連産性」について、記述にあるとおり、今後はゲノミック評価を利用した改良推進や NTP2024 のにおける指数の導入などの改良推進の効果を期待したい。耐久性の高い乳用牛の改良は持続可能な食料システムを構築するためのアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の対応にも関わる分野にも関連していると思われるので、その配慮に関して一文加えてはどうか。ご検討頂きたい。

(感想)

- (1)「⑤ その他の形質」について、暑熱耐性などの改良の推進に関する記述がある。今後も気候変動の影響が続くと思われ、泌乳能力の維持・向上に留意しながら改良を推進する中で、生産現場への丁寧な情報発信・周知をして頂きたい。
- 上記にも記されている「生産現場への丁寧な情報発信・周知」については、(2)の「体形に関する改良目標」に関しても同様であり、適正な大きさ、飼料などの検証に関しても、さらに生産現場への丁寧な情報発信に努めていただきたい。
- ゲノミック評価値の有効的な使い方について正確な情報発信や周知・普及を推進等に関しても同様であり、乳用牛改良増殖推進の取組状況を生産現場に適切に伝え関係者間で情報共有を進めていただきたい。
- そうした取組について、ウェブサイト等で消費者に見える形に示すことで、ミルクをつくる牛への親しみ、酪農家への感謝、アニマルウェルフェアの取組や持続可能な酪農のかたちが見えてくるのではないのでしょうか。

以上